令和６年度　授業改善推進プラン

東久留米市立第二小学校　第１学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す） （数値は、ワークシート・単元末テスト・小テスト・行動観察に基づく）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・促音や拗音、拗長音、助詞の「は、を、へ」を文章の中で正しく使うことができる児童は３割程度いる。 ・相手の話を落とさずに聞いたり、相手の発言を受けて言葉を返したりすることができる児童は２割程度いる。 ・文章を正しく音読したり正しく発音したりすることに課題が見られる児童が３割程度いる。	・経験したことを文章に書く機会を繰り返し設けたり、平仮名表記の補充問題に取り組ませたりすることで、３学期末までに８割の児童が正しく記述できるようにする。 ・自力解決後、一斉指導に入る前にペア対話の機会を国語の授業以外にも作る。対話活動の前にはモデルを提示し、３学期末まで　に７割程度の児童が相手の話を落とさずに聞いたり、相手の発言を受けて言葉を返したりすることができるようにする。 ・教師等の範読を聞かせ、それを真似させたり、一斉やグループ、個人など様々な形態での音読を行ったりすることで語彙力を身に付けさせ、３学期末までに９割の児童が語や言葉のまとまりを捉えて音読できるようにする。
算数	・１０までのたし算とひき算の計算は９割程度の児童が困難を感じることなくできている。 ・式を立てて答えを出すことはできるが、答えを記述する際に、正しい単位をつけて解答することに課題が見られる。 ・文章を具体的にイメージすることに課題が見られる児童は３割程度である。	・既習の学習に関する復習問題を朝の学級の時間を活用して定期的に行い、ワークテストで９０％以上できる児童を、３学期末までに８割程度にする。 ・何を訊かれているのか意識付けをするために、問題文に線を引いたり印を付けたりすることで、正しい単位を選択できる児童を３学期末までに８割程度にする。 ・問題場面を半具体物などで表し、問題場面を簡潔化する。また、ノートに絵や図で問題場面を表す活動を増やし、自力で文章問題を解決できる児童を３学期末までに８割程度にする。
生活	・身近な自然や育てた植物を観察した際、気付いたことを絵や言葉で表現することに課題が見られる児童は２割程度である。 ・学校生活や公共施設において、それを支える人たちがいることに気付いている児童は１割程度である。 ・自分の成長を捉えることができない児童が１割程度いる。	・国語の学習と関連付けたり、見本となる観察カードを掲示したりして書き方を捉えやすくする。また、観察記録の上手な児童を称賛し、その記録に目を向けさせるなどを通して、３学期末までに９割の児童が自力で記録できるようにする。 ・体験したり観察したりすることにより、自分の身の回りにおいて支える人の存在に気付くことができる児童を３学期末までに６割程度にする。 ・キャリアパスポートなどを活用し、自分の成長を捉えられる活動を多く設けることで、３学期末までに全員が肯定的に自分の成長を感じられるようにする。
道徳	・道徳的諸価値について、自分事として捉えることに課題が見られる児童は２割程度である。	・毎回の授業の中で児童に「何を考えさせ、何に気付かせたいのか」というねらいを板書するなどをして明確にし、考えが深まる発問を用意する。 ・ペア対話やグループでの話合いに際しては、ワークシートなどを活用し、個人で考える時間を十分に確保する。 以上のことを通して自分事として考えられる児童を３学期末までに８割以上にする。

東久留米市立第二小学校　第２学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す） （数値は、ワークシート・単元末テスト・小テスト・行動観察に基づく）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・文章の大体の内容は読み取ることができるが、細かい内容を読み取ることに課題がある児童は１割程度である。 ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解し、文章の中で正しく使うことができない児童は２割程度である。 ・漢字を文章中で正しく使用することに課題がある児童は１割程度である。 ・経験したことや想像したこと、自分の思いや考えなど、伝えたいことを言葉で表現することに課題がある児童は２割程度である。	・友達と交流したり、全体で考えを出し合ったりすることで、読み取り方や着目するポイントを学習し、３学期までに９割以上の児童が細かい内容まで読み取れるようにする。 ・助詞、句読点、かぎ（「」）や段落などに気を付けながら視写させる場面を多く取り入れ、９割以上の児童が正しく使うことができるようにする。 ・「漢字の広場」の単元や書写の時間、作文指導等、学んだ漢字を多く使う場を設け、３学期末までに９割以上の児童が文章中で正しく使用できるようにする。 ・少人数で話し合う活動を意図的に設定し、友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えようとしたりすることで表現力を養う。
算数	・繰り上がりや繰り下がりの筆算を用いて計算することに課題が見られる児童は１割程度である。 ・量の単位と測定の学習（時間、長さ）では、正確に測定・表記することに課題が見られる児童は３割程度である。 ・問題文から正しい図をかいたり、立式したりすることに課題が見られる児童は２割程度である。	・既習事項を振り返る時間や個別に学習できる時間を確保し、学習内容の定着を図る。 ・具体的なものの長さを測定し、量感を養う。 ・問題文の分かっているものや求めるもの、演算決定となるキーワードに線を引いたり、操作活動を丁寧に行い問題文をイメージできるようにしたりして、図に表す力や立式する力を育む。 →ワークテストで９０％以上できる児童を３学期末までに８割程度にする。
生活	・学校や地域の一員として自覚をもち、当事者意識をもって活動する姿勢に課題が見られる児童は３割程度である。 ・見たことは伝えられるが、体験を通して気付いたことや自分の思いを表現することに課題がある児童は２割程度である。	・話し合いを充実し、児童が興味、関心をもった事柄を取り上げて学習課題を立てて、３学期末までに全員が当事者意識をもって活動できるようにする。 ・学校や地域の大人と積極的にかかわり、地域の中の自分という意識を３学期末までに全員がもてるようにする。 ・国語の学習と関連付けたり、表現が難しい児童へ個別の声掛けを行い、気付きや思いを引き出したりすることで、３学期末までに９割の児童が自力で記録できるようにする。 ・学習カードや発表会など、様々な形で、３学期末までに全員が表現できる機会を充実させる。
道徳	・道徳的諸価値について、自分事として捉えることに課題が見られる児童は２割程度である。	・選択肢を与えて選んだ理由を考えるなど、誰でも話合いに参加できる授業展開を充実させる。 ・実体験を関連付けて考える活動など、自分事として想像できる学習活動を充実させる。 →以上のことを通して自分事として考えられる児童を３学期末までに８割以上にする。

東久留米市立第二小学校　第３学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す） （数値はワークシート・単元末テスト・小テスト・昨年度末CRTテスト・行動観察に基づく）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・話の内容を正しく理解し、その内容に対して適切に質問することに課題が見られる児童は３割程度である。 ・内容を整理して、ひとまとまりの文章にすることに課題が見られる児童は３割程度である。	・「話すこと・聞くこと」の単元で、聞き取った内容に対して、教科書の例示だけではなく、さらに深めるための質問をする場面を確保し、３学期末までに８割程度の児童が適切に質問することができるようにする。 ・「はじめ」「中」「終わり」の形で文章にまとめる経験を積ませたり、短作文に取り組む時間を確保したりする。３学期末までに８割の児童が２００字程度のひとまとまりの文章を書くことができるようにする。
算数	・１学期に実施した東京ベーシックドリルの結果から、昨年度の学習内容（単位変換、立体、図を使って式を立てること）に対する理解に課題が見られる児童は３割程度である。 ・数量やその関係を言葉で表現し、図や表に示すことに課題が見られる児童は３割程度である。	・振り返り学習やさかのぼり指導を行い、学習内容の定着を図る。復習プリント、東京ベーシックドリルを活用することで、単元末平均得点率を７割以上にする。 ・簡単な図などに表す活動を意図的に取り入れ、３学期末までに８割程度の児童が数量関係に関する問題を解決できるようにする。
理科	・試行錯誤や、観察・実験をさせた時に、問題を科学的に解決することに課題が見られる児童は３割程度である。 ・観察した後に気付いた事や思ったこと、疑問を表現することに課題が見られる児童は３割程度である。	・観察や実験等の後には、教師がワークシートを与えたり、児童に表を書かせたりするなど、結果をまとめやすいものを提供する。さらに結果をまとめる十分な時間を設定し、３学期末までに８割の児童が問題を科学的に解決できるようにする。 ・観察カードを繰り返し書き、その都度、観察対象の差異点や共通点に気付いたことや疑問に感じたこと、思ったことを書き出すよう促し、１単位時間の中で全員が記述することができるようにするようにし、３学期末までに８割以上の児童が表現できるようにする。
道徳	・道徳的諸価値について、自分事として捉え、考えをまとめることに課題が見られる児童は２割程度である。	・授業内の時間で、これまでに自分を想起させる発問をし、自分と向き合う時間をしっかりと確保する。 ・役割演技を通して、自分の考えを表現できる場を設ける。 ・集団検討の前にペアや小グループ討議などの意見交流の場を工夫する。 →以上のことを通して、自分事として考えをまとめられる児童を３学期末までに８割以上にする。

東久留米市立第二小学校　第４学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す） （数値は、ワークシート・単元末テスト・小テスト・行動観察に基づく）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・文学的な文章では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景などを場面の移り変わりから捉え、書き手が伝えたいことを捉えることに課題が見られる児童は２割程度である。 ・新出漢字を正しく書いたり、漢字の意味を捉えて熟語を選んだり書いたりすることに課題が見られる児童は3割程度である。 ・主語と述語、修飾語と被修飾語の関係を理解したり指示語や接続語の役割を理解したりすることに課題が見られる児童は３割程度である。	・文学的な文章の単元では、心情表現の変化や気持ちの移り変わりがわかるワークシートを作成し、主題に迫り自分の考えを発表することができるようになる児童を９割程度にする。 ・週１回時間をとり、繰り返し練習したり語彙を増やしたりする時間を 設定し、漢字ドリルテストの平均点８０点を目指す。 ・低学年からの言語事項の学習を復習し理解を深めるようにする。日々の学習場面や宿題で随時取り上げ確認するようにすることで、８割の児童が正しく文法を使って文を書けるようにする。
算数	・ワークテストで基本的な計算力に課題が見られる児童は１割程度である。 ・解き方やその理由について自分の考えを図や表を用いて説明することに課題が見られる児童は３割程度である。	・習熟度の実態に合わせて授業展開を変えたり、板書を工夫したりして基礎基本をしっかりと身に付けさせる。そして、「東京ベーシックドリル」で平均点を７０点と設定し、それを目指す。 ・ペア交流やグループでの話合いを授業の中に取り入れて考えを交流する時間を作ったり、皆の前で説明したりする機会を増やしたりすることで、自分の考えを図や表を用いて説明できる児童８割以上を目指す。
理科	・観察したときに気付いたこと、考えたこと及び疑問をノートに表現することに課題が見られる児童が２割程度である。 ・根拠のある予想や仮説が記入できない児童が２割程度である。	・既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説が書けるように予想や考察をワークシートや授業ノートにまとめる十分な時間を設定して、９割の児童が表現できるようにする。 ・観察の観点を明確にしたり、タブレットで写真や動画を撮ったりすることで根拠を明確にし、自分なりの予想や仮説を記入する児童９割以上を目指す。
道徳	・ねらいに対する自分の意見や考えをワークシートに文章で表現することに課題が見られる児童は２割程度である。 ・話合いの中で自分の考えをすすんで交流しようとすることに課題が見られる児童が３割程度である。	・授業中、自分と向き合う時間を十分に確保する。 ・役割演技を取り入れて気持ちを想像させたり、討論の場を作って自分の意見を述べる機会を設けたりと、表現する場を意図的に作る。 ・ペアやグループ討議など意見交流の場を工夫する。 →以上のことを通して、すすんで自分の意見を交流しようとする児童を８割以上にする。

東久留米市立第二小学校　第５学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す） （数値は、ワークシート・単元末テスト・小テスト・昨年度末CRTテスト・行動観察に基づく）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・文学的文章において、多くの児童が場面ごとの登場人物の心情をとらえることができる一方、全体としてどういう話なのかを説明することのできる児童は７割弱である。 ・説明的文章において、筆者の主張とその根拠となる事実の区別をすることに課題が見られる児童は３割を超えている。 ・多くの児童が長い作文を書くことに抵抗をもっており、自力で４００字程度の文章を書くことのできる児童は６割程度である。	・文学的文章では、単元に全体を通して主人公がどのように変化するのかを端的にまとめる活動を入れるようにし、３学期末までに８割以上の児童が全体としてどういう話なのかを説明することができるようにする。 ・説明的文章では、筆者の主張と根拠となる事実について、サイドラインの色分けをするとともに、「筆者は何と主張しているのか。」「どの事実から筆者はそう思ったのか。」を児童に問うように心がけ、課題のある児童を３学期末までに２割以下に減らす。 ・日常的に書き慣れを図って苦手意識をなくすようにし、お手本作文を提示してゴールをイメージさせることを通して、３学期末までに８割の児童が４００字程度の文章を書くことができるようにする。
算数	・「小数÷整数」の筆算を確実にできる児童は７割５分程度であるが、「小数÷小数」の筆算を正しく行うことに課題が見られる。 ・三角形や四角形を、必要な長さを書き入れて正しく作図することのできる児童は５割強程度である。 ・文章問題を読んで問題場面を理解し、常に正しく立式することのできる児童は６割５分程度である。	・必要に応じて単元内において既習事項を振り返る時間を確保し、３学期末までに７割の児童が正しく計算することができるようにする。 ・基本的な三角形や四角形の作図について、身に付いてない児童については立ち戻って取り組むように促し、３学期末までに正確に作図することのできる児童を８割にする。数直線や関係図を自らかく機会を増やし、３学期末までに８割の児童が正しく立式できるようにする。
理科	・観察したときに気付いたことや、考えたこと、疑問についてを表現することに課題が見られる児童は３割程度である。 ・実験器具を正しく用いるなど、観察、実験に関する技能に課題が見られる。	・予想や仮説に関する例文などを提示し、３学期末までに８割以上の児童が自分の考えを明確に文章化できるようにする。 ・生物を観察するときは、成長していく過程を記録に残させる。また、実験の際、予想や仮設を立て条件制御を考え流れを意識して取り組ませることを通して、３学期末までに８割の児童が実験する技能を身に付けるようにする。
道徳	・善悪の判断ができる児童は８割程度いる反面、自分よがりな考えが先行しがちな児童が２割程度いる。 ・親切にすることや思いやりのある行動ができる児童は８割いる反面、表現するときに偏りがある接し方をする児童が２割程度いる。	・自分の感情のコントロールができる環境を設定し、きまりを整えながら指導し、３学期末までに、ほぼ全員が善悪の判断ができる児童にする。 ・教材や内容項目に着目させたり、学級会活動や当番、係活動、班などグループで活動する場面を作ったりして、意図的に指導し、３学期末までにほぼ全員が相手の気持ちに目を向けることができるようにする。

東久留米市立第二小学校　第６学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す） （数値は、ワークシート・単元末テスト・小テスト・全国学力調査・行動観察に基づく）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・文学的文章では、多くの児童が登場人物の心情を意欲的に考えることができるが、情景やポイントとなる語句を読み取り、自分の考えをまとめることに課題が見られる児童は２割程度である。 ・説明的文章では、文の構造を考えながら筆者の考えや主張を読み取ることができるが、その考えに対する自分の考えを、根拠に基づいてまとめられる児童は７割程度である。 ・長い作文を書くことに抵抗をもっている。特に表現を工夫して自分の心情を書くことに課題が見られる児童は２割程度である。	・文章全体を読み取るだけではなく、場面や段落ごとに読み取らせる。その際、情景やポイントとなる部分に線を引かせ視覚的に分かるようにする。また、線を引いた部分と似ている場所を考えさせ、重要な部分を読み取らせる。これらのことを通して３学期末までに９割以上の児童が自分の考えをもてるようにする。 ・定期的に長い文章を書く機会を設ける。また、様々な場面で短い文を書くことで、苦手意識をなくすようにする。さらに、日記などを日常的に書いたり、友達の良い表現を提示したりして、３学期末までに９割以上の児童が長い文章を書けるようにする。
算数	・桁数が少ない数での乗法や除法はできるが、大きな数になったときの乗法や除法に課題が見られる児童は３割程度である。 ・文章問題では、問題の意味を考えて立式することに課題が見られる児童は２割程度である。 ・既習事項を基にして、答えに見通しをもったり立式したりすることに課題が見られる児童は３割程度である。	・計算練習を宿題とし、家庭学習を充実させ３学期末までに９割以上の児童が正答することができるようにする。 ・数直線、表、図、又は関係図などを使い、文章問題の内容を簡単に表し、３学期末までに９割以上の児童が立式できるようにする。 ・新しい単元に入る時には、既習の学習内容を想起させる。また、相違点を見付けさせ、活かせる部分を確認し、見通しがもてる児童を３学期末までに９割以上にする。
理科	・実験、観察に際して、根拠をもって予想を立てることに課題が見られる児童は２割程度である。 ・実験や観察の結果から、規則性などを見付けることに課題が見られる児童は２割程度である。	・普段の生活を想起させたり、映像を見せたりすることで、９割以上の児童が根拠のある予想を立てられるようにする。 ・一つの実験結果だけではなく、全ての結果を提示することで共通点を見付けさせ、３学期末までに９割以上の児童が規則性などについて考えられるようにする。
道徳	・話の内容について、意欲的に考えることができるが、道徳的価値について、更に考えを深めることに課題が見られる児童は２割程度である。 ・自分と他者との考えを意欲的に比べることができるが、比較したことでより自分の考えを深めることに課題が見られる児童は２割程度である。	・補助発問を計画的に行う。また、イラストや動作化などの表現技法を用いることで、道徳的価値により触れられるようにする。さらに道徳的価値を具体的に示すことで自分の考えを自分事として、より深めることができる児童を３学期末までに９割以上にする。 ・他者と触れ合う時間を意識的に作ることで、多くの児童が他者の考えを認められるようにする。また、考え方の良さを具体的に称賛し、その方法を使ってより深い考えをまとめられる児童を３学期末までに９割以上にする。